

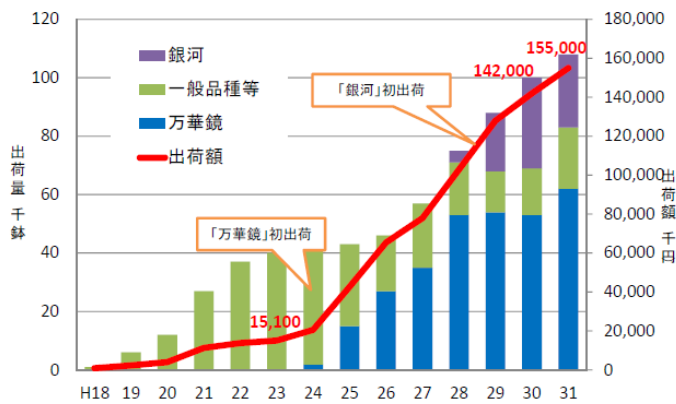
<p>標 題</p>	<p>島根県オリジナルアジサイの現状と今後の展望について</p> <p>～ アジサイ販売額2億円産地を目指して ～</p>
------------	---

(ダイジェスト)

島根県アジサイ研究会（以下「アジ研」と略す）では平成24年から県オリジナルアジサイ‘万華鏡’をはじめ、‘美雲’‘銀河’‘茜雲’の栽培に取り組んでいます。令和元年産では、販売鉢数111千鉢、販売金額約1億5千万円で、対前年比109%となり、引き続き増加傾向にあります。令和2年には‘茜雲’が本格出荷を迎えますが、全国の出荷市場との交流会でも高評価を頂いており、アジ研会員の取組み意欲も更に増しています。

アジ研は、H24年産から島根県農業技術センターで育種された県オリジナル品種の栽培に携わり、ジャパン・フラワー・セレクション鉢花部門で最優秀賞を受賞した‘万華鏡’（2012年）、‘銀河’（2016年）を核にした有利販売を続けています。

会員数は、平成30年7月に新規会員4名が加わり、15名です。島根県内の東西平坦地及び準高冷地で栽培に取り組んでいます。平成29年には、「技術・マニュアル班」「規格・ブランディング班」「検査員・トレサビリティ班」の専門部を設け、各リーダーを中心に積極的な活動を展開しています。

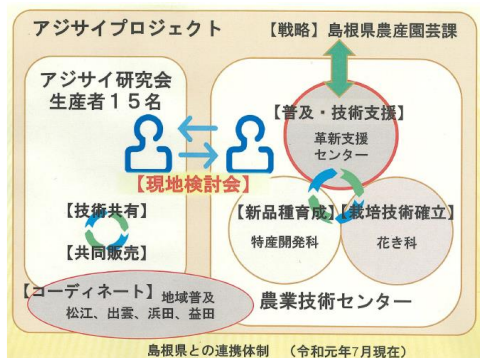


第1図 販売鉢数と金額の推移



第2図 令和2年から本格出荷する‘茜雲’

県オリジナルアジサイの推進体制は、第3図に示すとおりアジサイプロジェクトを中心に組み立てられています。県の育種方針・販売戦略等については、プロジェクト会議での合意形成の後、実働に移されます。今後もこの流れは継続してゆくと考えられます。



第3図 アジサイ推進体制

十数年前、数名の生産者が取り組んでいたアジサイ栽培ですが、令和元年には、1.5億円の産地にまで成長しました。アジ研会員は、「目指せ！2億円産地」を目標に、現地巡回も活気が溢れています。

県では、今後も、アジ研との連携を密に図りながら、指導体制を整え、支援してゆきます。

また、‘茜雲’に続く新品種も、今後、市場に導入予定です。ご期待下さい。